

明治二十三年八月

東京法學院學則

完

東京神田區錦町二丁目二番地
特別認可
私立東京法學院

東京法學院沿革紀要

東京法學院ハ元ト英吉利法律學校ト稱シ明治十八年ヲ以テ之ヲ創設ス是ヨリ先キ大
 學出身ノ法律家數名盟同シテ一ノ法律學校ヲ設置セントスルノ計畫アリ以來前後數
 回ノ商議ヲ經テ遂ニ設置ノ事ヲ決シ爰ニ始メテ創立事務所ヲ置キ且ツ創立ノ事ヲ
 廣ク内外人ニ揭明スルニ至ル而シテ其創立スヘキ學校ノ名ヲ英吉利法律學校ト命ス
 是レ實ニ明治十八年七月ナリ蓋シ當時創立ノ計畫ニ與リシモノハ磯部醇、西川鐵
 次郎、穗積陳重、岡山兼吉、奥田義人、岡村輝彦、渡邊安積、高橋一勝、高橋健三、
 山田喜之助、増島六一郎、藤田隆三郎、江木衷、合川正道、菊池武夫、澁谷愷爾、
 土方寧、元田肇等ノ諸氏ナリ而シテ創立事務ハ委員ヲ推選シ之ニ屬任スルコト、爲
 セシカ時ニ高橋一勝、増島六一郎、岡山兼吉、高橋健三ノ四氏其選ニ當リテ專ラ創
 立ノ事務ヲ執レリ
 抑、本校創立ノ旨趣ハ方今法律實地應用ヲ教養スルモノ世間其道ニ乏シキヲ以テ專
 ラ英米ノ法律ヲ講シテ後進ヲ陶冶スルニアリ其要梗ハ當時世ニ頒テタル廣告文中ニ
 掲ケルヲ以テ左ニ抄出ス
 方今未タ英米法律ノ長所タル法律實地應用ノ道ニ通スル者甚タ尠シ是レ蓋講師ノ
 數全キヲ得テ其全科ヲ教フル所ナキト其蘊奧ヲ極ムルニ足レル書籍ナク又法律書
 庫ノ設ナキト由ラスンハアラシテ世間往々英米法律ヲ教授スルノ校舎ナキ
 ニアラスト雖モ或ハ佛國ノ法律ヲ兼修セシメ或ハ專ラ英米法ヲ攻究スルモ專一ノ
 力ヲ其全體ニ及ホシ以テ實地應用ノ素ヲ養フモノ未ダ曾テ之アルヲ見ス是レ常ニ
 英米法學者ノ概嘆スル所ナリ余輩玆ニ見ル所アリ數多ノ法學者相集リテ英米法律ノ
 全科ヲ教授シ其書籍ヲ著述シ其法律書庫ヲ設立スルノ目的ヲ以テ本校ヲ設置ス
 十八年九月十日開校ス増島六一郎校長ノ任ニ就キ澁谷愷爾幹事ノ任ニ就ク而シテ開
 校ノ當時既ニ募集ニ應ヘル生徒九十七名アリ同月十九日江東中村樓ニ於テ開校式ヲ

沿革紀要

行フ内外貴顯學士ノ招待ニ應シテ會スルモノ數百名アリ

開校ノ當時設施セル法律學科目ハ左ノ如シ

第一學年 法學通論○契約法○私犯法○親族法○刑法○代理法○組合法○動產委託法○論理學

第二學年 賣買法○財產法○會社法○流通證書法○商船法○治罪法○保險法○國際公法○訴訟法○訴訟演習

第三學年 財產法○破產法○證據法○法律牴觸論○法理學○法律沿革論○憲法○行政法○訴訟演習○卒業論文

十九年七月十七日日本校第一回ノ卒業式ヲ舉行ス本日卒業證書ヲ授與セラレタル者四名アリ(本校創立ノ時ヨリ僅々一週年ヲ經テ卒業生ヲ出スコト此ノ如キモノハ開校ノ當時募集ニ應セル生徒中其既ニ他ノ法律學校ニ在リテ數年間法律ヲ學修セルモノハ直ニ本校第三年級ニ編入セルヲ以テナリ)

明治十八年七月始メテ校外生ヲ募集ス蓋シ其旨趣ハ遠隔ノ地方ニ在リ又ハ業務ノ爲メ參校シテ親ク講義ヲ聽ク能ハサル者ノ便ヲ計リ之ヲ設ケ講義ノ筆記ヲ印刷シテ之ヲ頒テ且就學證書又ハ卒業證書ヲ受ケント欲スル者ハ望ニ依リ試験ノ上之ヲ授與スルニアリ而シテ當時其募集ニ應セル者四百二十人ニ達セリ

明治十九年六月始メテ第二科(原書科)ヲ置キ英書ニ據テ法律ノ業ヲ授ケ同十月「テキストブック」ヲ發行ス其趣旨左ノ如シ

實務ニ急需アル學術ハ法律ニ若クハナシ實地應用ニ適切ナル法律ハ英吉利法律ニ若クハナシ抑本校ハ邦語ヲ用非主トシテ英吉利法律ヲ教授シ世務ニ堪能ノ士ヲ

養成セシコトヲ勤メリ然ルニ熟「社會ノ情勢ヲ察スルニ今ヤ内外人ノ交際日ニ繁キヲ致スノ秋ニ方リ區々邦語ニ依リ外國法律ヲ授クルカ如キハ未ダ以テ有爲ノ士ヲ陶冶スルニ足ラサルナリ本校夙ニ茲ニ見ル所アリ本期ヨリ歐米法律書攻修ノ科目ヲ創置セリ而ルニ之ヲ實施スルニ方リ大ニ不便ヲ感スルモノハ英吉利法律書ノ價值極メテ高貴ニシテ尋常學生ノ容易ニ購求スル能ハサル是ナリ加之坊間書肆ニシテ英吉利法律書ヲ蓄フル者甚タ稀ニ今試ニ各肆ノ律書ヲ網羅スルモ尙本校教科書ニ足ラサルナリ是ニ於テ本校ハ斷然資本ヲ擲テ英書ノ翻刻ニ從事シ務メテ其價ヲ廉ニシテ專ラ本校學生ノ教科書ニ充テ傍ラ江湖諸士ヲシテ容易ニ英法ノ原書ヲ購讀スルノ便ヲ與ヘント欲ス

當時第二科生徒ノ募集ニ應シタル人員四十八人アリ

明治十九年十二月二日東京府知事高崎五六ヨリ本校ヲ帝國大學ノ特別監督ニ付スルノ令達アリ其達書左ノ如シ

英吉利法律學校

其校今般特ニ帝國大學總長ノ監督ニ屬セラル、旨文部大臣ヨリ被相達候條其旨相心得ヘシ

但文部大臣ヨリ帝國大學ニ達セラレタル私立法律學校特別監督條規一部ヲ交付ス

明治十九年十二月二日

東京府知事 高崎五六印 帝國大學

東京府下ニ設置ノ私立法律學校ニシテ適當ト認ムルモノヲ擇ヒ左ノ條規ニ依リ時々其學總長ヲシテ之ヲ監督セシムルコトアルヘシ
明治十九年八月二十五日 文部大臣 森有禮

第一條 私立法律學校特別監督條規

帝國大學總長ハ東京府下ニ於テ適當ナリト認ムル私立法律學校ヲ擇ヒ特ニ但本文ノ學校ト雖尙一般私立學校ノ例ニ依リ地方官ノ管理ヲ受クルハ勿論

第二條 帝國大學總長ノ監督ニ屬スヘキ私立法律學校ハ必要ノ普通學科ヲ修メ

但各科ニ揭クル法律中帝國ニ於テ既ニ制定頒布アリタル者ハ主トシテ之ヲ

佛蘭西法律科 獨逸法律科 英吉利法律科

第一年 法學通論○契約法○私犯法○代理法○刑法
第二年 親族法○組合會社法○動產委託法○賣買法○財產法○治罪法
第三年 財產法○破產法○證據法○保險法○訴訟法○流通證書法○商船

第三條 帝國大學總長ノ監督ニ屬スル私立法律學校ノタメニ帝國大學總長ハ法

科大學職員ノ中ヨリ委員ヲ撰定シ常時及試験ノ時ニ於テ該學校ヲ臨監セシム

第四條 該私立法律學校々々主ハ毎月三日迄ニ其月ノ課業時間割表ヲ帝國大學へ

第五條 該私立法律學校ニ於テ定期試験ヲ行フトキハ少クトモ三日以前ニ校主

第六條 該私立法律學校ニ於テハ定期試験後二週間内ニ其成績表ヲ製シ校主

第七條 該私立法律學校ノ卒業生ニシテ帝國大學總長ニ於テ優等ナリト認メタ

第八條 帝國大學總長ハ委員ノ報告ニ依リ該私立法律學校々々主ニ學科々程及ヒ

督ヲ伊藤佛治、岡山兼吉、高橋健三、山田喜之助、松野貞一郎、菊池武夫、土方寧ノ七氏

二十年四月澁谷健爾幹事ノ職ヲ辭シ渡邊安積其後任ト爲ル

二十年二月幹事渡邊安積病ノ爲メニ死ス依テ爾來教務、會計、出版、圖書庶務等ノ監

督ヲ伊藤佛治、岡山兼吉、高橋健三、山田喜之助、松野貞一郎、菊池武夫、土方寧ノ七氏

明治二十年二月十五日本校高橋法律文庫ノ保管ヲ依囑セラル蓋シ高橋法律文庫ハ故

高橋一勝法律事業紀念ノタメ設置セルモノニ係ル且ツ同氏ハ本校員ノ一名ニシテ殊

九月更ニ煉瓦ヲ以テ増築スルコトニ決ス

明治二十年四月六日司法大臣ヨリ本校へ年々五千圓下賜セラル、ノ恩命アリ其達文

請願ノ趣聞届廿年度ヨリ當分ノ内壹箇年金五千圓其學校へ下賜スルニ付會計年度

末ニ於テ精細ノ決算報告ヲ爲スヘシ

司法省印

明治二十年四月六日
 明治十九年八月第一科へ英語學ノ一科ヲ編入ス其趣意ハ第二科設置ノ趣旨ト大同小異ナリト雖モ當今邦語ヲ以テ法律ヲ學フ者英語ヲ解セスハ到底完全ノ教育ヲ受クテ能ハスシテ其不便鮮少ナラサルヲ以テ茲ニ英語學ノ一科ヲ設ケタル所以ナリ而シテ明治二十年九月ヨリハ更ニ外國教師ヲ雇入レ懇篤ニ英語學ヲ教授スルノ計畫ナリ
 二十年十月十日第二回卒業式ヲ舉行ス本日卒業證書ヲ授與セラル者十八名アリ
 二十一年一月煉瓦石新築校舍落成ス同年二月新年宴會ヲ兼子校舎落成式ヲ舉ケ内外學士貴紳ヲ招待ス
 二十一年五月東京府知事ヨリ帝國大學總長ノ監督ヲ廢止スル旨ヲ達セラレ
 二十一年七月文部大臣ハ特別認可學校規則ニ依リ本校ノ學則ヲ認可セララル曩ニ帝國大學總長ノ監督ニ屬シタル府下私立五法律學校中ニテ特別認可ヲ受ケタルハ本校ヲ以テ嚆矢トス
 二十二年二月第三回卒業式ヲ舉行ス其日卒業證書ヲ授與セラレタルモノ五十一名アリ
 二十二年九月第四回卒業式ヲ舉行ス其日卒業證書ヲ授與セラレタルモノ百四十三名ニテ類別スレハ左ノ如シ
 ○英語法學科 二十六名
 ○邦語法學科 百十七名
 二十二年十月文部大臣ヨリ本校ヲ東京法學院ト改稱スルヲ認可セラレ
 二十三年三月二十五日特別認可學校規則ニ改正アリタリ
 二十三年九月學科課程ヲ現今ノ如ク改正シタリ
 二十三年十一月第五回卒業式ヲ舉行ス其日卒業證書ヲ授與シタルモノ三百九名
 ○邦語法學科 二百十八名
 ○英語法學科 九十一名

文部省告示第四號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區錦町二丁目二番地私立英吉利法律學校ノ學則ヲ認可ス

明治二十一年七月十二日

文部大臣子爵 森 有 禮

文部省令第三號

明治二十年七月七勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第十七條第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ニ關シ特別認可學校規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十一年五月五日

文部大臣子爵 森 有 禮

明治二十三年
三月廿五日改正 特別認可學校規則

第一條 本令ニ於テ特別認可學校ト稱スルハ明治二十年^七月勅令第三十七號文官試驗
試補及見習規則第十七條第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學
又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ヲ謂フ

第二條 特別認可學校ハ修業年限三箇年以上ニシテ法理學。法學通論。憲法。行政法。
民法。訴訟法。刑法。治罪法。商法。國際法。財政學。理財學。統計學。史學。論理學。等
ノ諸學科中七科目以上ヲ學修スル爲メ一定ノ課程ヲ設クルモノタルヘシ但シ法律
學ヲ主トスル學校ニ於テハ擬律擬判ノ課ヲ設クルヲ要ス

第三條 特別認可學校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ年齢十七年以上ニシテ尋常中學
校卒業證書ヲ有スル者若クハ國語漢文外國語地理歴史數學ノ各科ニ就キ尋常中學
科ノ程度ニ依リ高等中學校ノ試験ヲ經テ及第シタル者ニ限ル但シ數學中三角法ハ
之ヲ除キ代數幾何ハ其初步ニ止ムルコトヲ得

第四條 特別認可學校二年級以上ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ前條ノ資格ヲ有シ且
該級生徒ノ歷修シタル各級講科目ニ就キ試験ヲ經テ及第シタル者ニ限ル
但本文ノ試験ヲ行フトキハ第七條ノ例ニ依リ其科目日限時間割及試験成績ヲ申

報スベシ

第五條 第三條ニ掲クル高等中學校ノ試験ハ特別認可學校所在地ノ高等中學校又ハ
同高等中學校及其他ノ高等中學校ニ於テ毎年一回若クハ二回之ヲ施行シ及第者ニ
ハ當該高等中學校ヨリ認定證書ヲ與フルモノトス

前項ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ族籍姓名年齢ヲ記シタル願書ニ學業履歷書及手
數料ヲ添ヘ保證人連署ノ上試験ヲ施行スヘキ高等中學校ヘ差出スベシ
但シ試験ノ時期及場所手數料ノ金額ハ當該高等中學校之ヲ廣告スルモノトス

第六條 特別認可學校長ハ生徒ノ入學ヲ許可シタル都度其族籍姓名年齢及入學ニ必
要ナル卒業證書若クハ認定證書ヲ得タル學校名年月日ヲ記載シ文部省ニ申報スヘ
シ

第七條 特別認可學校ハ每學年ノ終ニ學年試験ヲ行フヘシ其科目及日限時間割ハ試
驗期日ノ三十日前ニ試験成績ハ試験後四十日以内ニ該學校長ヨリ文部省ニ申報ス
ヘシ

第八條 特別認可學校ニ於テ最終ノ學年試験ニ及第シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ
授與シ族籍姓名ハ授與ノ後十日以内ニ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ
卒業證書ノ式ハ畧ス

第九條 文部大臣ハ特ニ委員ヲシテ特別認可學校ノ試験ニ監臨セシメ及管理授業等ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十條 文部大臣ハ特別認可學校ノ管理及授業上改良ヲ要スルモノアリト思慮スルトキハ該學校ニ對シテ其改正ヲ命シ又本規則ニ依リ特別認可學校タルノ資格ヲ有セシムヘカラスト思慮スルトキハ其認可ヲ廢止ス

第十一條 特別認可學校長ハ每學年ノ初三箇月以内ニ前學年間該學校諸般ノ狀況ヲ文部省ニ申報スヘシ

第十二條 特別認可學校ハ其設立者設立者數名アルトキハ其總代及學校長連署ニテ左ノ事項ヲ詳具シ府縣廳ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 學科(特ニ教科用圖書ヲ定ムルトキハ其圖書)課程學期

一 試驗規則

一 入學退學規則

一 學校維持法

一 學校名稱

一 學校位置

一 生徒定員

一 學校長教員履歷

前第一項ヨリ第七項ニ至ル各項ノ變更並學校長教員ノ變更ハ預メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 特別認可學校タルノ資格ヲ得タルモノト雖モ尙一般私立學校ノ例ニ依リ地方官ノ管理ヲ受クヘキモノトス

東京法學院學則目錄

前加	特別認可生規則	一
第一章	總則	三
第二章	學年、學期、休業	七
第三章	學生及院友	八
第四章	入學、在學、退學	十
第五章	證書	十一
第六章	試驗規則	十五
第七章	在外生規則及附則	十六
第一款	講義錄	全
第二款	在外生入學、在學規則	十七
第三款	在外生質問規則及附則	二十

目錄

一

第八章	書庫規則	二十一
第一款	閱覽室規則	全
第二款	圖書携出規則	二十三
第三款	學生教科書貸與規則	二十四
○		
	在院生月謝納付手續	二十八
	教場心得	二十九
	事務章程	三十
	講師姓名	三十三
	卒業生姓名	三十四

私立東京法學院學則

特別認可生規則

第一 入學

- 特別認可生ヲラント欲スル者ハ年齡十七歲已上ノ男子ニシテ左ノ各項中一項ノ資格ヲ具有スルコトヲ要ス
- 一、尋常中學校ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 二、明治二十三年三月改正特別認可學校規則第五條ニ規定セル高等中學校ノ認定證書ヲ有スル者
 - 三、明治十四年文部省達第二十八號中學校教則大綱ニ基ケル高等中學校ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 四、明治十九年四月勅令第十三號ニ依ル師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 五、明治十八年九月改正ノ教則ニ依リタル石川專門學校ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 六、高等中學校豫科卒業已上ノ者
 - 七、他特別認可學校在學中ノ者
- 第二 生徒定員
- 生徒定員ハ各級三百人未滿トス但初年級ニ限リ四百人ヲ定員トス

特別認可生規則

第三 卒業證書雛形

卒業證書

族籍 姓 名

年月日生

右者本院所定ノ學科ヲ修メ茲ニ其業ヲ卒ヘリ依テ明治二十一年文部省令第三號特別認可學校規則第八條ニ從ヒ此證書ヲ授與ス

特別認可私立東京法學院長 姓名印

特別認可私立東京法學院教員 姓名印

年 院
印 月 日

番號

以上ハ特別認可生ニ特有ナル規則ナリ他ハ皆普通規則ヲ適用ス

普通規則

第一章 總則

第一條 趣旨

本院ハ帝國法律ノ實地應用ヲ練習セシムルヲ目的トシ本邦制定ノ法律ヲ教授スルノ外廣ク法理ニ通達スル爲メ邦語又ハ英語ヲ以テ法律學ヲ講授スルモノトス

第二條 學科

本院ハ英語ヲ以テ教授スルモノト邦語ヲ以テ教授スルモノトノ二科ヲ置キ英語法學科邦語法學科ト稱ス其教授スル所ノ課目ハ兩科共同シ

第三條 課目

英語法學科ノ課目左ノ如シ

○第一學年

法 學 通 論 日本民法人事編 日本刑事訴訟法

日 本 刑 法 日本民法財産編第一部 日本民法財産編第二部

日 本 憲 法 アンソング氏 英國私犯法

羅 馬 法 フォーレル氏 民法及商法原理

右每週二十四時間以內

○第二學年

日本民法財產取得編	日本民法證據編	日本商法第一編
日本民事訴訟法	英國商法	日本刑事訴訟法
法例	擬律擬判	訴訟演習
羅馬法	行政法	英國證據法
英國契約法		

右每週二十六時間以內

○第三學年

日本民法債權擔保編	日本商法第二第三編	日本裁判所構成法
國際公法	國際私法	羅馬法
法理學	マアックビー氏法律論綱	擬律擬判
	ホルランド氏法理學	訴訟演習
	メイン氏沿革法理	

行政法 法律解釋學 法律書類立案原論

スネル氏 英國衡平法

右每週二十時間以內

○第一學年

法學通論	日本刑法	日本民法財產編第一部
日本民法財產編第二部	日本民法人事編	日本刑事訴訟法
憲法	英國契約法	英國私犯法
羅馬法	法論	民法及商法原理

右每週二十四時間以內

○第二學年

日本民法財產取得編	日本民法證據編	日本商法第一編
-----------	---------	---------

日本刑事訴訟法	日本民事訴訟法	法
英國商法	擬律擬判	訴訟演習
羅馬法	行政法	英國證據法

右每週二十六時間以內

○第三學年

日本民法債權擔保編	日本商法第二第三編	日本裁判所構成法
國際公法	國際私法	羅馬馬法
擬律擬判	法法理學	訴訟演習
行政法	法律解釋學	法律書類立案原論
英國衡平法		

右每週二十時間以內

第二章 學年、學期、休業

第四條 修業年限

英語法學科邦語法學科共修業年限ヲ三年トス

第五條 學年

九月十一日ヨリ翌年七月十日マテナ一學年トス

第六條 學期

一學年ヲ分テ二學期トス即チ左ノ如シ

自九月十一日	第一學期
至翌年二月十日	
自二月十一日	第二學期
至七月十日	

第七條 休業

本院休業日左ノ如シ

自七月十一日至九月十日

自十二月二十六日至翌年一月六日

日曜日及大祭日

第三章 學生及院友

第八條 學生ノ等級

學生ノ等級ハ學年ノ數ニ準シテ第一年級第二年級第三年級ノ三級ニ分ツ

第九條 學生ノ區別

英語法學科ハ悉ク在院生トス

邦語法學科ニ入學スル者ヲ分チ在院生及ヒ在外生トス

第十條 在院生、在外生

本院ニ通學シテ講義ヲ聽聞スルモノヲ在院生トシ本院ニ通學セズシテ本院出版ノ講義録ニ依リ修業スル者ヲ在外生トス但在外生規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 員外生

必用ノ普通學科ヲ脩メタルモノニシテ入學試験ヲ經スシテ臨時入學スル者ハ之ヲ員外生ト稱シ第一年級ノ講義ヲ聽聞スルコトヲ得

第十二條 正員生

正員生ハ定期入學試験ノ際試験ヲ受ケ及第シタル者ニ限ル

但尋常師範學校及ヒ之ト同等若クハ同等以上ノ學科ヲ授クル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通邦語法學科ニ限リ第一年級正員生ニ編入セラルコトヲ得

第十三條 員外生受験

員外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得ルト雖モ入學試験舉行ノ際其試験ヲ受ケ及第シタル者ニアラサレハ正員生トナルヲ許サズ但本條ニ從ヒ正員生トナリタル者ノ序次ハ其一年間ハ從來ノ正員生ノ後ニ置ク者トス

第十四條 在院生ノ特權

在院生ハ本院ノ書庫ニ備付クル圖書ヲ閱覽シ本院出版ノ講義録並ニ英文法律書ヲ實價ニテ買受クルコトヲ得

但月謝不納者ハ該月出版ノ講義録ヲ買受クルコトヲ得ス

第十五條 院友ノ特權

就學證書又ハ卒業證書ヲ有スル者ハ本院々友トナシ常ニ本院ニ出入シテ講師ニ就キ學問上ノ質疑ヲ爲シ若クハ本院書庫ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

第四章 入學、在學、退學

第十六條 入學

- 一 本院ニ入學セント欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス
- 一 年齡十七歲以上ノ男子タル者
- 二 入學試験ニ合格スル事

入學試験科目

國語 假名交リ作文

漢文 講讀

數學 四則、分數比例

英語法學科ニ入學セントスル者ハ右ノ外英語學ヲ試験ス

- 一 私立東京英語學校本科初等科第一級以上ノ者又ハ同校夜學科高等科第二級以上ノ者ハ入學試験ヲ要セスシテ邦語及ヒ英語法學科第一一年級ニ入學スルコトヲ得
- 一 英語法學科入學試験手数料ハ金三十錢ヲ納メシム
- 一 邦語法學科入學試験手数料ハ金二十錢トス
- 一 第二一年級以上ニ入學セントスル者ハ前條件ノ外ニ前級科目ノ試験

ヲ受クルコトヲ要ス但シ手数料トシテ更ニ五十錢ヲ納メシム

第十七條 入學期

入學試験期ハ毎年七月九月及二月ノ三度トス

但期日ハ其都度之ヲ公告ス

第十八條 在學證

入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ本院ヨリ定式ノ在學證ヲ受取リ之ニ指定ノ記入ヲ爲シ保證人ト連署シテ本院教務係ニ差出ス可シ

消印スベシ 在學證雛形

英語法學科(一、二、三)年級在院正員(員外)生在學證

拙者儀此度貴院へ入學被差許候上ハ在學中御規則堅ク相守リ可申候仍テ證書如此候也

明治 年 月 日

本籍族 宿 所

姓 年 月 日生 名

右之者在學中一切ノ事件ハ拙者引受可申候仍テ證書如此候也

本籍族

宿所

保證人

姓

年月日生

東京法學院御中

一 英語法學科ヨリ邦語法學科ニ轉セントスル者并ニ邦語法學科ヨリ英語法學科ニ轉セントスル者ハ學期又ハ學年ノ終ニ非サレハ之ヲ許サス

一 英語法學科正員生ヨリ邦語法學科生ニ轉スル者ハ無試驗ニテ相當ノ正員生ニ編入スルヲ得邦語法學科生ヨリ英語法學科生ニ轉スル者ハ英語學ノ試驗ヲ經テ及第シタル者ニ非サレハ正員生タルコトヲ得ス

第十九條

本人若クハ保證人ニシテ氏名ヲ改稱シ本籍宿所ヲ移轉シ又ハ保證人ヲ變換シタルトキハ其都度本院教務係ニ届出ツ可シ

第二十條 學費

一 本院在院生ニ入學スル者ハ東修トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

但在外生(五ヶ月以上在外生)ヨリ在院生ニ移リ又ハ在院生ヨリ在外生ニ轉スルモノハ東修ヲ要セス

一 學費額ハ一學年ニ付金十一圓トシ八月ヲ除キ毎月欠課ノ有無ニ拘

ハラス之レヲ二期ニ徴収ス

第一期 九月十一日

第二期 二月十一日

但當分ノ中月割ヲ以テ分納スルモノトス

一 學年ノ中途入學若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及退學以後ノ分

納金ヲ免除ス

一 相當ノ理由アリテ届出ノ上欠課スルモノハ一ヶ月分々納金ニ限り

之ヲ免除ス

一 一學年中一ヶ月以上ノ分納金ヲ怠リタルモノハ納付濟ノ上ニアラ

サレハ學期及學年試驗ニ出席スルヲ許サス

第二十一條 退學

退學セント欲スル者ハ保證人連署ノ證書ヲ以テ其旨本院教務係へ届出ツ可シ

第二十二條

學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者品行不良ニシテ學生ノ面目ヲ汚ス者及故ナク三ヶ月以上登院セサル者ハ退學セシム

第二十三條

届出ノ有無ヲ問ハス缺席六ヶ月以上ニ涉ルトキハ退學者ト看做シ學籍ヨリ削除ス可シ

第五章 卒業證書

第二十四條

本院所定ノ學課ヲ卒ヘタル者ニハ左式ノ證書ヲ授與ス

卒業證書雛形

何某本院ニ於テ英語法學全科ヲ修メ其業
 ナ卒フ仍テ卒業證書ヲ授與シ爰ニ之ヲ
 證ス爾後永ク本院々友タルノ特權ヲ享
 有スヘシ
 年 月 日

東京法學院 長 講師
東京法學院 講師

誰 誰 誰

第六章 試驗規則

第二十五條

每學年ノ終リニ於テ學年試驗ヲ舉行ス尙ホ學年中ニ於テ臨時學期試驗ヲ行フ事アル可シ

但シ學期試驗ヲ舉行スルキハ該試驗期日三十日以前ニ公告スベシ

第二十六條

各科目百點ヲ以テ滿點トシ各科平均六十點以上ヲ得タルモノハ及第トス但平均六十點以上ヲ得ルト雖モ一科目ニテモ三十點未滿ノ者アルトキハ落第トス

第二十七條

疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ學年試驗ニ欠席シタルモノハ詮議ノ上次學年ノ始メニ於テ補欠試驗ヲ受クルコトヲ許ス但シ手数料トシテ一科ニ付テ二十錢ヲ納メシム

第二十八條

試驗成績ハ之ヲ印刷ニ付シ各學生ノ保證人ニ配付スルコトアル可シ

第七章 在外生規則

第一款 講義錄

第二十九條 通則

遠隔ノ地方ニ在リ又ハ業務ノ爲メ參院シテ親シク講義ヲ聽ク能ハサルモノ、便チ計リ在外生ノ制チ設ケ本院講師講義ノ筆記ヲ印刷シテ之ヲ頒ツ

第三十條 種類

講義錄ハ第一級講義錄第二級講義錄第三級講義錄ノ三種トス

第三十一條 出版日

第一級講義錄ハ毎月曜日ニ發兌シ第二級講義錄ハ毎水曜日ニ發兌シ第三級講義錄ハ毎金曜日ニ發兌ス

第三十二條 紙數

講義錄ハ都テ一冊ノ紙數六十ページヲ限リトス

第三十三條 記載事件

講義錄ハ講義ヲ記載スルノ外本院ノ記事及廣告類ヲ記載スル者トス

第三十四條 在外生學年

在外生學年ハ十月一日ニ初マリ翌年九月三十日ニ終ル

第二款 在外生入學、在學、規則

第三十五條 通則

何人ニ限ラズ本規則ニ從ヒ在外生ヲラント欲スルモノハ試驗ヲ要セス何時ニテモ入學ヲ許ス

第三十六條 教科及修業年限

教科及修業年限ハ在院生ニ準ス

第三十七條 講義錄配付

在外生ニハ各級共每週一回講義錄ヲ配付スヘシ

第三十八條 證書

在外生ニシテ就學證書又ハ卒業證書ヲ受ケント欲スルモノハ其學年ノ終ル前ニ申出ツヘシ

但試驗ハ本院ニ於テ執行ス

第三十九條 入學手續

在外生ヲラント欲スルモノハ其氏名族籍住所年齢ヲ記シタル入學證書東條並ニ一ヶ月分ノ月謝ヲ添ヘ申込ムヘシ

第四十條 入學證

在外生入學證雛形 (用紙半紙野紙)
在外生第一、二、年級在學證

消印スベシ

私儀今般貴院へ入學御許可相成候上ハ在學中御規則堅ク相守可申
候仍テ證書如斯候也

年 月 日

現住所 姓

年 名 齡

東京法學院御中

第四十一條 束脩

在外生ハ束脩金五十錢ヲ納ムヘシ

第四十二條 月謝

在外生ハ毎月翌月分ノ月謝金五十錢ヲ前納スヘシ

但前納セサルモノハ講義録ノ配付ヲ見合スヘシ

第四十三條 増金

將來印刷費遞送費等増加スルトキハ豫メ通知シテ相當ノ増金ヲ納メ
シムルコトアルヘシ

第四十四條 月謝金不返付

既ニ受領シタル月謝金ハ假令本人ノ都合ニヨリテ退學スト雖モ其退
學シタル月ノ月謝金ニ限り之ヲ返付セス

第四十五條 住所通知

住所ヲ轉シ又ハ氏名ヲ改稱スル者ハ速ニ本院講義録係へ通知スヘシ

第四十六條 月謝金遲滯

月謝金不納ニケ月以上ニ及フトキハ退學生ト看做スヘシ故ニ再ヒ送
本ヲ請フモノハ更ニ入學ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四十七條 月謝金送付手續

月謝金ヲ爲替トシテ送致スルモノハ東京神田區錦町二丁目二番地東
京法學院會計岡山兼吉へ宛東京神田郵便局へ向ケ振込ムヘシ

但シ在外生ハ各級講義録冊尾ニ附属シアル納付證ヲ切取り必ス添
フヘシ

第四十八條 同上
月謝金ハ郵便切手ヲ以テ納付スルコトヲ禁ス

第三款 在外生質問規則
第四十九條 通則

本院在外生ハ講義録ニ登載スル諸課目ニ限リ疑問アルトキハ通信ヲ以テ之ヲ質スコトヲ得但擬律擬判ノ問ハ一切答案ヲ付セサルモノトス

第五十條 質問信書

質問信書ニハ講義録ノ號數(合本ニ爲シタルタメ號數ノ見)課目丁數ヲ示シ疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第五十一條 答案

凡ソ質問ハ質問委員ニ於テ其難易ヲ判別シ主旨自ラ明瞭ナリト認ムルモノ若クハ質問通信ノ文意了解シ難キモノハ答案ヲ付セサルヘシ

第五十二條 問答記載

質問及答案ハ時々講義録ノ紙尾ニ登錄スヘシ

第五十三條 質問信書名宛

質問信書ハ本院質問委員ニ宛テ郵送スヘシ

第八章 書庫規則

第一款 閱覽室規則

第五十四條 通則

本院書庫ニ貯藏スル原書和書譯書類ハ閱覽室内ニ於テ講師學友學生及事務員ノ閱覽ヲ許ス

第五十五條 通則

圖書係並ニ講師ノ外書庫ニ入り圖書ヲ檢索シ若クハ之ヲ出納スルヲ許サス

第五十六條 月謝未納ノ學生

學生月謝未納ノ間ハ閱覽室ニ入ルコトヲ許サス

第五十七條 退職事務員

本院ノ職員滿二ケ年以上就職シタル者ハ退職後閱覽室ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ許ス

第五十八條 閱覽票

學友及退職事務員ニシテ本院閱覽室ノ圖書ヲ閱覽セント欲スルモノハ豫メ本院事務所ニ於テ閱覽票ヲ申受ケ入室ノ際之ヲ携帯スヘシ

第五十九條 借受手續
閱覽ヲ望ム學生ハ圖書係ヨリ定式ノ借覽證書ヲ受取り之ニ指定ノ記入ヲ爲シ聽講券ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十條 借覽冊數
閱覽者ハ一時ニ三冊ヲ限リ借覽スルコトヲ許ス但講師ハ此限ニ非ス

第六十一條 書籍返納
閱覽室ヲ立出ツル時ハ必ス書籍ヲ返納スヘシ

第六十二條 賠償
借覽ノ書籍ヲ紛失シ又ハ汚損スルトキハ相當ノ償金ヲ差出サシムヘシ

第六十三條 音讀等ノ禁
閱覽室内ニ於テ音讀雜談喫煙スルコトヲ禁ス

第六十四條 罰則
以上ノ規則ヲ犯シタルモノハ事情ニ應ジ一ヶ月以内ニ於テ閱覽室ニ入ルコトヲ禁ス

第六十五條 閱覽室ノ開閉
閱覽室ノ開閉左ノ如シ
自九月十一日 正午十二時ニ開キ午後八時ニ閉ツ
自七月十一日
自七月十一日 午前八時ニ開キ正午十二時ニ閉ツ
至九月十日

第二款 圖書携出規則
第六十六條 講師
講師ハ講義參考用ノ爲メ一科三冊ヲ限リ本院ノ圖書ヲ借受ケ自宅ニ携帶スルコトヲ得

第六十七條 借受手續
前條ニ依リ圖書ヲ携出セント欲スルモノハ圖書係ニ就キ貸附簿ニ記名捺印シ圖書係ノ檢印ヲ受クヘシ

第六十八條 借受制限
書庫ニ一冊限リ保存スル書籍ハ講義用ノ外携出スルヲ許サス

第六十九條 事務員携出
事務員ハ特ニ幹事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ書庫ノ圖書ヲ携出スルコトヲ許サス

第七十條 返納
凡テ携出シタル圖書ハ滿三ヶ月毎ニ悉ク返納シ更ラニ借受ノ手續ヲ爲スヘシ

第三款 學生教科書貸與規則

第七十一條 教場携帶

圖書係ニ於テ特ニ許可シタル書籍ノ外ハ教場ニ携帶スルコトヲ許サス但教場携帶ノ許可ヲ得タル書籍ハ受業了リシ後ハ直チニ圖書係ニ返納スヘシ

七十二條 自宅携帶

教科書ハ本院貯藏ノ多寡ニ依リ自宅ニ携帶スルコトヲ許ス事アル可シ但携帶ヲ望ム者ハ本院所定ノ保證金ヲ差出サシムル者トス

七十三條 自宅携帶書籍返納期限

自宅携帶借用ノ書籍ハ滿三ヶ月毎ニ悉皆返納シ更ニ借受ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十四條 罰則

前條ノ手續ヲ怠リタル者ハ書籍返納ノ際保證金ノ内ヨリ左ノ割引ヲ

爲スヘシ

- 滿三ヶ月以上四ヶ月未滿ハ保證金ノ一割
- 滿四ヶ月以上五ヶ月未滿ハ保證金ノ二割
- 滿五ヶ月以上六ヶ月未滿ハ保證金ノ三割
- 以下一ヶ月ヲ超ユル毎ニ一割ヲ加フ

在外生附則

第一條

入學以前ノ講義録ヲ購求セント欲スルモノニシテ一ヶ月分以上ヲ購讀スルモノハ一冊金拾錢宛ノ割ヲ以テ拂下クヘシ

第二條

各級ヲ兼脩スルハ妨ケナシト雖モ各級毎ニ更ニ入學證書ヲ差出スヘシ

但東脩ヲ要セス

第三條

爲換券ニテ月謝拂込ノ節ハ其證券落手次第講義録ハ發送スルモ月謝領収證ハ爲換金請取濟ノ上ニテ送付スルモノトス

第四條

講義録ハ期日ニ必ス發兌スヘキニ付其到着スヘキ當日ヨリ起算シ一週間ニ及フモ尙到達セサルトキハ其旨本院講義録係へ届出ツヘシ

第五條

在外生ノ本院ニ對スル書信ハ都テ何年級在外生ト記載スヘシ

第六條

講義録刊行其他在外生ニ關スル事務ハ本院休暇中ト雖モ取扱フヘシ

在院生月謝納付手續

第一條

月謝金ハ翌月分ヲ前月ノ末日迄ニ會計係ヘ差出スヘシ

第二條

月謝金ヲ納付スル者ハ會計係ヨリ金員ト引替ヘニ聽講券ヲ受取ルヘシ

第三條

既ニ納付シタル一ヶ月分ノ月謝金ハ中途退學スルト雖モ之ヲ返付セス

第四條

在院生ニハ其所屬級ノ講義錄一部ニ限リ當分ノ内金六錢ニテ賣渡ス
但月謝不納ノ月并ヒニ他級ノ講義錄ヲ購讀セントスルモノハ一冊
金九錢ヲ納ムヘシ

教場心得

第一條

教場ニ出席スル者ハ必ス聽講券ヲ携帯スヘシ聽講券ヲ持タサル者ハ
教務係ヨリ退場ヲ命スヘシ

第二條

教場ニ於テハ專ラ靜肅ヲ旨トシ講師ニ恭順ナルヘシ

第三條

教場ニ於テ雜談スルコトヲ禁ス

第四條

教場ニ於テ喫煙スルコトヲ禁ス

第五條

教場ノ器物ヲ汚損スル者ハ相當ノ償金ヲ差出サシム

第六條

聽講券ヲ遺失シタル者ハ其再渡ヲ會計係ニ申出ツ可シ
但シ手数料トシテ二十錢ヲ徴收ス

事務章程

第一章 職員

第一條

東京法學院ニ事務所ヲ設ケ左ノ職員ヲ置キ本院一切ノ事務ヲ取扱ハシム

一 院長

院務ヲ總理ス

一 幹事

旨ヲ院長ニ享ケ事務員ヲ指揮ス

一 會計係

本院金錢出納ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨ス

一 教務係

本院學生ノ勤惰教務上ノ應對在外生ノ進退其他教務ニ關スル一切ノ事ヲ處辨ス

一 講義錄係

講義錄發送ノ事ヲ掌ル

一 編輯係

講師ノ講義ヲ筆記シ講義錄編輯出版ノ事ヲ掌ル

一 圖書係

圖書ノ出納ヲ掌リ圖書ニ關スル一切ノ帳簿ヲ保管ス

一 取締係

學生及ヒ院内ノ取締ヲ掌ル

一 仕丁

院内ノ洒掃其他ノ賤務ニ從事ス

第二章 執務時間

第二條

職員ハ毎日午後一時迄ニ出勤シ午後六時ニ退出ス

但圖書係ハ圖書規則ニ從ヒ閱覽室開場ノ前三十分ニ出勤シ閉場後三十分ニ退出スル者トス

第三條

法學士	樋山資之	明治十九年七月卒業	山梨縣平民	網倉兵作
法學士	青木八重八	長崎縣士族	千葉縣士族	星野操
法學士	芹澤孝太郎	埼玉縣平民	愛媛縣平民	柚木角衡
法學士	岡崎正也	長野縣平民	千葉縣平民	和泉漱三
法學士	莊清次郎	廣島縣士族	新潟縣平民	江澤通明
法學士	犬塚勝太郎	古屋市之助	新潟縣平民	上野關太郎
法學士	原龜太郎	明治廿一年七月卒業	新潟縣士族	鳥居錦次郎
法學士	藤田虎力	山口正毅	東京府士族	窪田欽太郎
法學士	石渡敏一	石山彌平	靜岡縣士族	榊原周次郎
法學士	(不在)中村元嘉	石野春五	東京府士族	上松操
法學士	寺島直	藤井公道	廣島縣平民	花井卓藏
法學士	(不在)工藤則勝	安元阿萬	福岡縣士族	結城朝陽
法學士	(不在)三阪繁八	新澤文次郎	山梨縣平民	遠山仙太郎
法學士	(不在)楠正位	中川真太郎	德島縣士族	野村照次郎
米國法律學士	シドモール	川村綱太郎	岩手縣士族	坂本武治
米國法律學士	リッチフィールド	三浦大之助	群馬縣平民	橋倉次雄
米國法律學士	クウール	米原光太郎	靜岡縣平民	竹田孝太郎
		宇宿行夫	佐賀縣平民	森永藤市

千葉縣平民	中路俊郎	大分縣平民	大津善治	福岡縣平民	深田鶴松
長崎縣士族	桑山敬次郎	熊本縣士族	田中迪三	明治廿二年七月卒業	
山梨縣平民	茅野寛吾	熊本縣士族	右田巳熊	○英語法學科(△標準附スルモハ特別認可生)	
奈良縣平民	片岡常吉	島根縣平民	佐々岡延藏	愛知縣士族	△大久保雅彦
北海道廳士族	伊藤秀雄	京都府平民	中村泰藏	東京府平民	△守永兵治
埼玉縣平民	福田又一	廣島縣平民	藤井乾助	島根縣平民	△桑原羊次郎
山口縣士族	藤村幸之進	東京府士族	三村釵吉	東京府平民	△北田新藏
埼玉縣士族	田代初太郎	長崎縣士族	堀内武彦	千葉縣平民	△杉山彌太郎
島根縣士族	佐々木佐吉郎	岐阜縣平民	神谷泰一	靜岡縣平民	△渡邊豐治
滋賀縣士族	佐倉武敏	千葉縣平民	吉野清九郎	愛知縣平民	吉田斯民
靜岡縣平民	加藤秋次郎	京都府士族	勢多章之	福島縣平民	渡邊留三郎
島根縣士族	諏訪部彦二郎	新潟縣平民	井伊小平太	東京府士族	△岩田鍊
宮城縣士族	櫻田文吾	石川縣士族	橋本銀次郎	愛知縣士族	△川田鎌二
神奈川縣平民	福岡禎三	福岡縣士族	栗生誠太郎	高知縣平民	△鈴木達之
廣島縣士族	川崎壽太郎	千葉縣平民	武本淳	京都府士族	△西内金吾
山口縣士族	上田範之輔	新潟縣平民	左右田信次郎	石川縣士族	河邊彦三郎
山梨縣平民	高柳富策	新潟縣平民	吉村信治	埼玉縣平民	△寺尾規矩郎
愛知縣平民	石塚讓	新潟縣平民	川瀬周次	埼玉縣平民	△塚越翁太郎
新潟縣平民	瀨下清通	三重縣平民	小林廣造	福岡縣平民	△稻益一義

富山縣士族	△原 豐 作	愛知縣平民	△山田傳右衛門	東京府平民	中野願三郎
靜岡縣士族	杉原由郎	長野縣士族	△手塚彦太郎	岩手縣平民	新田目善次郎
新潟縣士族	△中根鎮八郎	岡山縣平民	△田邊 亨	群馬縣平民	大谷忠四郎
千葉縣平民	△江澤通明	東京府士族	△栗生嶺三郎	京都府士族	△勢多章之
佐賀縣平民	小宮宗一	愛知縣平民	△尾崎周藏	北海道廳士族	齋藤二郎
青森縣士族	山中英四郎	大分縣平民	△古閑利和	兵庫縣平民	△山中兵吉
富山縣士族	△田所次助	長野縣平民	工藤武重	東京府平民	△星野輝廉
長崎縣平民	△江口俊平	長野縣士族	下田千次郎	岡山縣平民	△福原嘉之
東京府士族	△一野喜三郎	愛媛縣士族	宇都宮高三郎	岐阜縣平民	△杉山平治郎
補欠試驗卒業	△野本貞美	長野縣士族	△岩波一 郎	秋田縣平民	△北島傳四郎
高知縣士族	△荒井 操	愛知縣平民	河相大三	岡山縣平民	△川上定次郎
兵庫縣平民	△永瀧久吉	廣島縣平民	△小川三四郎	熊本縣士族	△隈部三郎
和歌山縣平民	△森 彦逸	長野縣平民	松井民二郎	東京府士族	石野正弘
新潟縣平民	△北岡保定	宮城縣平民	小名木伊之助	福岡縣士族	浮州福雄
愛媛縣平民	△篠原豐鷹	兵庫縣平民	△小西豐太郎	長野縣士族	△淺山季造
京都府平民	北島愛重	高知縣平民	渡邊勘十郎	長野縣士族	△吉田千賀三
山梨縣士族		茨城縣平民	紫雲義一郎	群馬縣平民	浦野 安

岐阜縣平民	大橋樹太郎	長野縣平民	丸山治作	神奈川縣士族	瀬戸常吉
香川縣平民	△福田秀太	栃木縣平民	富田喜三郎	大分縣平民	△大津善次
茨城縣平民	倉持 達	宮城縣平民	松田 繁	岐阜縣士族	丹羽虎之助
廣島縣平民	淡近 澄	大分縣士族	嶋木 武	東京府平民	關根大藏
鳥取縣士族	不破平藏	福岡縣平民	戸田猪八	栃木縣士族	日下田仁
茨城縣平民	大内濟美	廣島縣平民	岡田侃二郎	新潟縣平民	△星野德一
千葉縣士族	△神直三郎	長野縣平民	務臺由藏	靜岡縣平民	金井 暹
岩手縣平民	柵瀬軍之佐	福岡縣平民	木下長次郎	富山縣士族	能川元重
千葉縣士族	長尾芳三	長野縣士族	中山峯太郎	福井縣士族	△山本政吉
福島縣平民	深谷喜久太郎	島根縣平民	引野寅之助	福島縣平民	古内久米
新潟縣平民	涌井武次郎	岐阜縣平民	△鈴木盛吉	愛媛縣平民	杉 甚三郎
長野縣平民	谷澤久三郎	和歌山縣士族	△富松 浩一	長野縣士族	大橋諄治
神奈川縣平民	高橋留三	秋田縣士族	武茂 紀綱	新潟縣平民	相川成道
廣島縣士族	村上兵治郎	新潟縣平民	△小菅純三郎	奈良縣平民	富澤 良輔
岡山縣平民	森本邦二郎	長野縣平民	近山武輔	愛知縣平民	安藤 靜
廣島縣士族	△川崎壽太郎	兵庫縣平民	松村巳之助	北海道廳平民	寺崎源作
熊本縣士族	佐藤 量三	東京府平民	△大内梅吉	山形縣平民	庄司林造
福島縣士族	△井深寅三郎	大分縣平民	△小谷作次郎	千葉縣平民	白井與吉
東京府士族	△朽木義春	愛媛縣士族	國枝壽賀治	新潟縣平民	水島惟孟

廣島縣平民	△信岡陽之助	長野縣士族	北村水次郎	山梨縣平民	桐原平次郎
千葉縣平民	小宮勇太郎	鳥取縣平民	△恩田熊壽郎	廣島縣平民	△岡田侃次郎
島根縣平民	大谷安太	長野縣士族	三羽金次郎	岩手縣士族	△高橋仙治郎
岐阜縣平民	立川宇藏	千葉縣平民	馬場俊三郎	埼玉縣平民	△丸山辰五郎
神奈川縣平民	守屋金吾	山梨縣平民	△依田弘	東京府平民	△五味平五郎
山梨縣平民	安藤菊太郎	鳥取縣平民	△小谷鐵次郎	佐賀縣士族	△田代保
福井縣平民	平森文五郎	和歌山縣平民	△佐伯岩五郎	東京府士族	△笹間健治
山口縣士族	高津三郎	埼玉縣平民	△指田義雄	新潟縣平民	三輪龜三郎
和歌山縣平民	山田熊楠	群馬縣平民	今成茂八	愛媛縣士族	橫田維好
補欠試驗卒業		埼玉縣平民	△柳原右助	秋田縣士族	齋藤正毅
愛媛縣平民	宇都宮萬龜	長野縣士族	△山浦橋馬	三重縣平民	△森永秀次郎
福島縣士族	高野安太郎	埼玉縣平民	△北島愛重	北海道廳平民	△黑河内淳
和歌山縣平民	△森山美富	長野縣平民	△森田金之助	愛知縣平民	小木曾吉三郎
東京府平民	△三村釵吉	岐阜縣士族	△近藤綱衛	福島縣士族	△谷川慎吾
神奈川縣平民	須藤源次郎	廣島縣平民	△井上二郎	愛知縣平民	澤田金作
岡山縣士族	杉山虎雄	長野縣平民	柳澤和一郎	岡山縣平民	△早川六郎
明治廿三年七月卒業		長野縣平民	吉川平太郎	岡山縣平民	△三村泰治
○邦語法學科		愛知縣平民	△長濱信太郎	大分縣平民	久持虎松
奈良縣平民	△妻戸政吉	兵庫縣平民	△大原庄太郎	青森縣士族	△齋藤勤

佐賀縣平民	峯松茂三郎	三重縣平民	大西洋	岡山縣平民	梶谷藤衛
佐賀縣士族	△執行軌正	東京府平民	△小池清廣	大分縣平民	綾部茂雄
宮城縣士族	井口俊英	廣島縣平民	△木村瀧槌	熊本縣士族	△上田久志
鹿兒島縣士族	麓純義	埼玉縣平民	須原大助	岐阜縣士族	△八木信成
福岡縣士族	柴田良之助	山口縣平民	藤井啓一	千葉縣平民	福原祐三
群馬縣平民	原誠三郎	群馬縣平民	松井政一郎	石川縣士族	河村可三
茨城縣平民	△大内濟美	石川縣平民	△戸水汪	山口縣士族	△芥川順治
埼玉縣士族	會田龜太郎	福井縣平民	橫田熊一	埼玉縣平民	松崎定四郎
鳥根縣士族	△永田好峯	大分縣平民	△佐藤三吾	新潟縣士族	田中正備
長崎縣士族	△藤山畫一	和歌山縣平民	△宮本良太郎	德島縣平民	△佐々木直人
東京府平民	△柴崎守雄	兵庫縣平民	△森作藏	岐阜縣平民	△井深丑之助
愛知縣平民	西尾清一	靜岡縣士族	岡田歌之助	新潟縣平民	△二瓶忠吉
和歌山縣平民	△鈴木愛之助	福島縣平民	遠藤作太郎	長野縣士族	上原秀雄
靜岡縣平民	早川菊次郎	富山縣平民	△吉田俊爲	鳥取縣平民	木本吉藏
石川縣士族	△藤田子儀	山口縣平民	△山本彦太郎	長崎縣士族	△須藤直方
福井縣平民	△玉村又吉	茨城縣平民	△關口勘作	鹿兒島縣士族	△藤田虎之助
山形縣士族	中野悌治	滋賀縣士族	小久保龜松	埼玉縣士族	△西田正孝
島根縣平民	△加持金次郎	千葉縣平民	△石井寅太郎	兵庫縣平民	藤尾木藏
兵庫縣平民	石田紋太郎	長崎縣士族	神田廣三郎	靜岡縣平民	△高柳覺太郎

東京府士族	淺井金吾	新潟縣平民	大竹廣作	福岡縣平民	樋口陸平
愛媛縣平民	△松賀靖	山口縣士族	多賀芳介	東京府士族	馬場豐三郎
山形縣平民	國井常吉	長崎縣平民	△谷島作太郎	廣島縣平民	△高橋榮之助
山梨縣平民	須田小五郎	山口縣士族	△武弘彦植	靜岡縣平民	鈴木國平
和歌山縣平民	△崎山慶三郎	福岡縣平民	△吉田豐太郎	靜岡縣士族	島富十郎
千葉縣平民	佐藤民治	愛知縣平民	△寺澤保平	栃木縣士族	△大久保子來
茨城縣平民	△佐藤久三郎	山梨縣平民	川村喜兵衛	青森縣士族	△弦木榮吉
千葉縣平民	△秦桓	福岡縣平民	倉員克巳	大分縣士族	△秋吉作内
東京府華族	△青木信光	香川縣平民	中條虎三	鳥取縣士族	岡村熊雄
長野縣士族	阪口房二	岡山縣士族	△濱野啓太郎	秋田縣平民	△横山駒藏
千葉縣士族	△柴田亨	島根縣平民	△鎌田淵海	群馬縣平民	高柳廣造
東京府平民	宇都野鑄造	富山縣平民	武田退年	秋田縣士族	△薄葉運藏
新潟縣平民	△大倉廉平	秋田縣士族	△飯塚光熙	長野縣士族	權田武三郎
岐阜縣平民	△小栗茂	靜岡縣平民	森田菊藏	岐阜縣平民	桐山光次郎
福井縣平民	川崎榮樹	新潟縣平民	△稻田周之助	富山縣平民	泉田與四郎
和歌山縣士族	△中村啓次郎	大分縣士族	△種田勘太郎	群馬縣平民	龜田外次郎
長野縣平民	△佐藤宇吉	福岡縣士族	木下荒次郎	福馬縣平民	村岡禎二郎
福島縣士族	高田熊太郎	茨城縣平民	野尻勝哉	福岡縣士族	小倉敬止
宮城縣平民	△氏家彦五郎	德島縣平民	△圓藤光太郎	鳥取縣平民	田村隆

島根縣平民	△松本百四郎	千葉縣平民	△中山佐一	福井縣士族	△成田豐四郎
新潟縣平民	△伊藤幸太郎	福島縣平民	牧野啓次郎	富山縣士族	柴大橋幸吉
東京府平民	田中新造	茨城縣平民	坂本武郎	栃木縣平民	半澤正吉
栃木縣平民	小瀧鎮治郎	香川縣士族	△間宮斐男	宮城縣平民	淺井仙藏
長野縣平民	山本喜十	栃木縣平民	三好君助	靜岡縣平民	權田吉豫
茨城縣平民	平井龜三郎	岐阜縣平民	野澤作重郎	長野縣士族	新津繁松
青森縣士族	△工藤馨	東京府平民	△今津喜平治	長野縣平民	高橋喬
茨城縣平民	小島龜次郎	宮城縣士族	中村金之丞	宮城縣平民	田中眞吉郎
千葉縣平民	尾高米太郎	愛知縣士族	△山田知晃	長崎縣士族	鈴木次郎
佐賀縣士族	△村松喜太郎	岐阜縣士族	西村福三郎	靜岡縣平民	△高木鏘吾
大坂府平民	東野芳三郎	廣島縣士族	△松岡斧之助	東京府平民	△松澤常四郎
福井縣平民	△中川正雄	愛知縣平民	△村上兵次郎	新潟縣平民	根本泰藏
靜岡縣平民	古川源策	佐賀縣士族	△寺澤鎗太郎	東京府士族	本司義足
大坂府平民	池田卓三郎	東京府平民	志岐常信	福岡縣平民	蜂谷春治
宮城縣士族	壹岐寅之進	福岡縣平民	戶倉忠夫	岡山縣平民	工藤右一郎
石川縣士族	村井加季	福岡縣平民	山下格	鹿兒島縣平民	三島平一
鹿兒島縣士族	桑波田景明	佐賀縣平民	久富三保助	山口縣士族	△福田又一
栃木縣平民	△佐原寅三郎	長野縣平民	△今井小太郎	崎玉縣平民	
靜岡縣平民	△池田大助	千葉縣平民	野口藤十郎	補欠試驗卒業	

奈良縣士族	東武吉	和歌山縣平民	△池田元太郎	埼玉縣平民	△關田豐吉
靜岡縣士族	佐藤敬次郎	青森縣士族	△高杉常五郎	石川縣士族	△杉村立枝
愛知縣平民	深見藤十	神奈川縣平民	△關戶清太郎	長崎縣士族	△川鍋鐵馬
東京府平民	福島喜太郎	東京府士族	△多賀谷忠八	東京府平民	△古宇田直次
長崎縣平民	△川口文吾	千葉縣平民	△佐藤龍藏	京都府平民	△多貝虎太郎
靜岡縣平民	鈴木峯次郎	東京府士族	△高島俊雄	石川縣士族	△高木銑次郎
宮城縣平民	油井幸次郎	長野縣平民	△柳澤佐五平	山口縣平民	△高木祥二郎
○英語法學科		岡山縣平民	△中村龜夫	山梨縣士族	△高木淵
神奈川縣平民	△井上八重吉	岐阜縣平民	△高島 憲	長野縣平民	△太田團野
埼玉縣平民	△卜部喜太郎	長野縣平民	△松山清五郎	茨城縣平民	△江面島造
高知縣士族	宮地正彰	香川縣平民	△豐田喜苗	三重縣士族	△有馬太郎
群馬縣平民	△飯塚春太郎	京都府士族	△後藤倬四郎	福岡縣平民	△津田信次郎
神奈川縣士族	△清水龜太郎	東京府士族	△日比野正次	山梨縣平民	△相原文四郎
東京府士族	△千野要之助	靜岡縣平民	△鈴木 與六	埼玉縣平民	△芝田恒三郎
神奈川縣平民	△杉山 虎雄	愛知縣平民	△山田惣太郎	福岡縣士族	△萩原善太郎
岩手縣士族	△橫濱 幾慶	秋田縣士族	△鎌田馬之助	千葉縣平民	△宇井半平
秋田縣士族	△竹内行毅	福岡縣平民	△井手口武藏	愛知縣士族	△上杉武治郎
島根縣士族	△伊藤久次郎	山梨縣平民	△萩原 兵作	新瀉縣平民	△椎谷 榮作
神奈川縣平民	△堀江銀次郎	福井縣平民	伊奈豐治郎	東京府平民	△山本留藏

石川縣士族	△高柳鎌次郎	長崎縣平民	△笹山光太郎	東京府平民	△小笠原孝定
新瀉縣士族	△中川銑三郎	佐賀縣士族	神崎錦次郎	山形縣平民	長濱寅藏
德島縣士族	△佐藤松太郎	茨城縣士族	山 中 茂	福岡縣士族	△宮井虎三郎
德島縣士族	△酒井 順藏	山形縣士族	△大場 茂馬	補欠試驗卒業	
神奈川縣士族	石原謙三郎	栃木縣士族	△武田已知衛	栃木縣平民	△馬場牧次郎
京都府士族	△河邊彦三郎	群馬縣平民	關口安太郎	東京府士族	
兵庫縣士族	△大森鐘三郎	東京府平民	△杉原丈太郎		
佐賀縣士族	△梅野 一郎	滋賀縣平民	中山憲次郎		
靜岡縣平民	△松本榮太郎	愛知縣平民	△湯淺喜九郎		
東京府平民	△中島邦太郎	京都府平民	△松岡敬太郎		
埼玉縣平民	△松岡三五郎	長崎縣平民	△內 山 益		
岡山縣士族	△小河原淺松	山形縣平民	△永澤 朗		
群馬縣平民	△中村耕司	宮城縣平民	△今野藤輔		
東京府平民	△澤田 孫七	愛媛縣平民	△芥川 兵吉		
岡山縣士族	△津國百松	東京府平民	△須田安五郎		
福岡縣士族	△生井耕造	京都府士族	△生間辰之助		
京都府平民	△川村猪藏	群馬縣平民	△服部 銀平		
群馬縣平民	森川彦太郎	廣島縣平民	黑田 禹六		
群馬縣士族	△根村俊彌	千葉縣平民	△武井忠五郎		

東京法學院學則
明治二十三年八月
一、凡入學者須先納保證金
二、凡入學者須先納保證金
三、凡入學者須先納保證金
四、凡入學者須先納保證金
五、凡入學者須先納保證金
六、凡入學者須先納保證金
七、凡入學者須先納保證金
八、凡入學者須先納保證金
九、凡入學者須先納保證金
十、凡入學者須先納保證金
十一、凡入學者須先納保證金
十二、凡入學者須先納保證金
十三、凡入學者須先納保證金
十四、凡入學者須先納保證金
十五、凡入學者須先納保證金
十六、凡入學者須先納保證金
十七、凡入學者須先納保證金
十八、凡入學者須先納保證金
十九、凡入學者須先納保證金
二十、凡入學者須先納保證金
二十一、凡入學者須先納保證金
二十二、凡入學者須先納保證金
二十三、凡入學者須先納保證金
二十四、凡入學者須先納保證金
二十五、凡入學者須先納保證金
二十六、凡入學者須先納保證金
二十七、凡入學者須先納保證金
二十八、凡入學者須先納保證金
二十九、凡入學者須先納保證金
三十、凡入學者須先納保證金
三十一、凡入學者須先納保證金
三十二、凡入學者須先納保證金
三十三、凡入學者須先納保證金
三十四、凡入學者須先納保證金
三十五、凡入學者須先納保證金
三十六、凡入學者須先納保證金
三十七、凡入學者須先納保證金
三十八、凡入學者須先納保證金
三十九、凡入學者須先納保證金
四十、凡入學者須先納保證金
四十一、凡入學者須先納保證金
四十二、凡入學者須先納保證金
四十三、凡入學者須先納保證金
四十四、凡入學者須先納保證金
四十五、凡入學者須先納保證金
四十六、凡入學者須先納保證金
四十七、凡入學者須先納保證金
四十八、凡入學者須先納保證金
四十九、凡入學者須先納保證金
五十、凡入學者須先納保證金
五十一、凡入學者須先納保證金
五十二、凡入學者須先納保證金
五十三、凡入學者須先納保證金
五十四、凡入學者須先納保證金
五十五、凡入學者須先納保證金
五十六、凡入學者須先納保證金
五十七、凡入學者須先納保證金
五十八、凡入學者須先納保證金
五十九、凡入學者須先納保證金
六十、凡入學者須先納保證金
六十一、凡入學者須先納保證金
六十二、凡入學者須先納保證金
六十三、凡入學者須先納保證金
六十四、凡入學者須先納保證金
六十五、凡入學者須先納保證金
六十六、凡入學者須先納保證金
六十七、凡入學者須先納保證金
六十八、凡入學者須先納保證金
六十九、凡入學者須先納保證金
七十、凡入學者須先納保證金
七十一、凡入學者須先納保證金
七十二、凡入學者須先納保證金
七十三、凡入學者須先納保證金
七十四、凡入學者須先納保證金
七十五、凡入學者須先納保證金
七十六、凡入學者須先納保證金
七十七、凡入學者須先納保證金
七十八、凡入學者須先納保證金
七十九、凡入學者須先納保證金
八十、凡入學者須先納保證金
八十一、凡入學者須先納保證金
八十二、凡入學者須先納保證金
八十三、凡入學者須先納保證金
八十四、凡入學者須先納保證金
八十五、凡入學者須先納保證金
八十六、凡入學者須先納保證金
八十七、凡入學者須先納保證金
八十八、凡入學者須先納保證金
八十九、凡入學者須先納保證金
九十、凡入學者須先納保證金
九十一、凡入學者須先納保證金
九十二、凡入學者須先納保證金
九十三、凡入學者須先納保證金
九十四、凡入學者須先納保證金
九十五、凡入學者須先納保證金
九十六、凡入學者須先納保證金
九十七、凡入學者須先納保證金
九十八、凡入學者須先納保證金
九十九、凡入學者須先納保證金
一百、凡入學者須先納保證金

明治廿四年二月十日

印刷者同勞舍活版所

松澤 玨三

麹町區下六番町十七番地

中央大学大学史編纂課
20100495